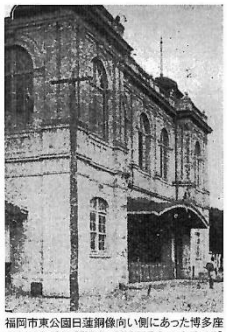
JAPAN TEACHERS' UNION ―教え子を再び戦場に送るな―

JTU ほっきゅう NO. 12

2023. 7. 7 北九州市教職員組合にゅうす

冬来たりなば、春遠からじ！no.2
～「全九州水平社創立の地に学ぶ」フィールドワーク報告～

報告者；中島弘陽


福岡市東公園日蓮銅像向い側にあった博多座
明治43年建設[「博多・劇場五〇年のあゆみ」]

金平部落のフィールドワークの後、私たちは全九州水平社創立大会がおこなわれた旧博多座跡を訪れた。**旧博多座の跡**は、現在博多税務署に隣接する駐車場となっている。創立大会当時は、博多の街で最も由緒ある劇場であったと言われている。その劇場を治一郎は電話一本で予約し周辺にいた仲間を驚かしたと言われている。

フィールドワークで最後に訪れたのは、現在の福岡県庁前にある東公園の亀山上皇銅像下の階段である。その場所は、**福岡連隊事件**の犯人とでっち上げられた若者たちや治一郎が下獄するにあたって見送る会が行われた場である（一回目は昭和3年12月16日：大野・萩原・下田・茨・松村・西岡・高岡の下獄、二回目は昭和4年4月1日：藤岡正右衛門の下獄、三回目は５月 10 日：松本治一郎の下獄）。それぞれの見送る会には、九州各地から3百人を超える部落民が集まったと言われている。

「絵本・いのちの花
（園田久子）」

治一郎たちがでっち上げによって下獄したのは、戦前の**言論統制思想弾圧の時代において**のできごとである。ここで、私たちが学びたいのは、このような時代においても、**希望を持ち続けた青年がいたこと**である。

小雪が舞う第一回の下獄を見送る会で、壇上に駆け寄り**「冬来たりなば、春遠からじ！」**という言葉を叫んだ青年がいたのだった。青年は、**たとえ弾圧されようとも必ず勝利する**ことを伝えたかったのだろう。

現在、一時的には政権交代があったものの「55年体制」から続く自民党政権の中で民主主義・民主教育への攻撃がなされ続け、教組運動はますます厳しい状況となっている。しかし、青年の言葉をはじめ、今回のフィールドワークで学んだように、如何なる厳しい時代においても**平和と人権の確立を求め続けた運動があったこと**、その運動は幾多の困難な状況を抱え込んでも、**やがては結んでいくこと**を忘れてはならない。

松本治一郎が下獄時の写真[松本治一郎史料]

如何に厳しい冬であろうとも、**春は必ず訪れるのだ**。私たちは、この**教組運動に誇りと使命を持ち続けたい**ものである。

「冬来たりなば、春遠からじ」

組合員としての誇りを胸に！「全員集会(7/29)」まで後 22 日(7月7日現在)

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！
///JTU 北九州市教職員組合 〒802－0072 小倉北区東篠崎３丁目4－1
E-mail:jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp 北九州教育会館 TEL (093) 953 － 0381